



ふくろうの家 その22 2012年4月 だより

●発行/株式会社私の青い空
●編集/アウルコート真駒内広報室 〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3 ☎011-588-1122



今日のらんこ アウルコートのいやし課長キャバリアの「らんこ」です



犬の1年は人間の7、8年分に相当するといわれています。らんこも熟年世代の仲間入りです。



いま



●介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)
アウルコート真駒内
〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3
TEL.011-588-1122 FAX.011-588-1133
入居相談受付中 ☎0120-916-768

交通機関 ●地下鉄南北線「真駒内」駅下車
●じょうてつバス「真駒内駅前」停で真駒内線に乗り(約5分)「南町4丁目」下車(徒歩約4分)

アウルコート真駒内 検索 <http://www.owlcourt.jp>

創立5周年を迎えて

代表取締役 武田 治信

アウルコート真駒内はこの4月1日に5周年を迎えました。これもひとえに皆様のお力添えのおかげと心より感謝しております。

既成の枠にとらわれない自由な発想で「高齢者の終のすみか」をつくるのが私たちの夢でした。大株主のオーナーや大会社が背景にあるチェーン店ではなく(実際そういうお誘いもお受けしましたが…)、「自分や家族がしてほしいことに対応する」というシンプルな目標を実現するために、あえて私と施設長の二人だけでスタートを切りました。

平成16年頃から土地探しを始め、会社設立や有料老人ホーム協会への加入審査等々、多くの方のご縁やご協力をいただきながら、二人三

脚で走り抜けてきました。準備期間中に基本コンセプトを「旅するように暮らしたい」とし、「施設ではなく住み続けたい家」を目指そうと決めました。そして、平成19年4月1日、現在の職員の核となる14名でアウルコート真駒内開設となりました。私たちの個性を理解し共感してくださる方からは、満室の今もお問い合わせやご予約を途切れなくいただいています。

5年を経て感じるのは、今日のアウルコートの個性は、ご入居されている方々とご家族に見守られ、職員一人ひとりに支えられ、磨かれてきたということです。まだまだ完成品ではありませんが、これからも皆様のお力をいただき、進化していきたいと思っております。

雰囲気はまるでホテルの祝賀会

アウルコート真駒内の創立5周年を祝い、4月1日(日)にレストランとラウンジのスペースで記念祝賀会を行いました。料理一式は東京ドームホテル札幌に依頼。ホテルの回転テーブルが館内に持ち込まれ、ホテルで働く黒服のウェイターが給仕を担当するなど、ホテルでの

パーティーそのままの華やかな宴席となりました。

当日の出席者は85名。5年前の開設祝賀会は建設や介護福祉など業界関係者が大半でしたが、今回はご入居者様とご家族の方々が主役です。「道外から駆け付けてくださったご家族もいらっしゃいました」と武田ひろみ施設長。5年を経て、アウルは皆様の「家」になりました。



▲BGMは大江綾さんによる二胡の生演奏。アンコールは李香蘭が歌った「夜来香(イエライシャン)」。どちらもご入居者様のリクエストでした。



▲料理の食材は食べやすいサイズで



▲皆様の食事のペースに合わせて、コース料理の進み方もゆったり

ご縁に感謝して新たな一歩を

祝賀会は武田治信代表のあいさつでスタートしました(1面に抄録)。永年勤続の職員6名に記念品が授与され、続いてアウ

ルを設計された建築家の遠藤謙一良先生からご祝辞をいただいた後、祝電披露。ご入居者様のご家族から多くのお祝いの言葉が寄せられました。そして、アウルで毎食の調理を担当している株式会社レオックの伊橋亨支店長のご発声で乾杯。アウルの厨房で3名のホテルシェフがつくるできたての料理が運ばれ、料理に舌鼓を打ちながら歓談のひとときとなりました。

エビチリの大エビに切り目を入れたり、オードブルを小ぶりに

するなど、調理ではご入居者様の食べやすさに配慮しました。普段の食事が刻み食の方に職員がステーキや握り寿司を切り分けたり、自室でお休みの方に料理をお届けできたのは、アウル内で行う祝賀会ならではの、ご家族の皆様には、職員やほかのご家族とお話する好機ともなったようで、各テーブルで談笑の輪ができていました。

ご入居者の皆様のための希望で、代表の方から一言ごあいさつをいただくことが当日決ま

春の宴 5年間の感謝を込めた みんなでお祝い、創立5周年記念祝賀会



▲司会の方からアウルに贈られたハート型のお餅



▲永年勤続の職員6名を一人ずつ表彰



▲アウルの厨房で腕をふるうシェフたち



▲デザートのケーキは3種をご用意

りました。丁寧に重ねられた感謝の言葉に職員一同は大いに感激し、アウルで暮らしを紡ぐことへの思いを新たにしました。

ようやく5歳になったアウルに、今後とも皆様のご指導ご厚情を賜りますようお願いいたします。



▲会場には手作りのウェルカムボード

祝辞

来賓

株式会社
遠藤建築アトリエ
遠藤 謙一良 様



ご祝辞をいただいた遠藤先生は、祝賀会を機にアウルを久しぶりに来訪してくださいました。スピーチではまずアウルとのご縁を語られ、旅するように暮らせる家として「季節感があり、人との関わりの中での充実した暮らし」を目指して5年前にオープンしたアウルが、「今も当時と変わらない環境を保っていることに驚いています」と感想を一言。それを実現した職員をねぎらいながら、「どんな仕事も究極のテーマは人がいきいきと生きられること」と、ご自身の仕事とアウルの役割を重ねられ、力強いエールを送ってくださいました。

謝辞

職員

介護職員
千葉 いづみ



祝賀会を締めつけたのは、アウルから出席の皆様へのお礼の言葉。職員代表の千葉がトリを飾る大役に緊張しながら、アウルでご入居者様とふれあう喜びを語りました。また、入社から5年を経ても反省することは日々あり、昨年挑戦した0泊2日の富士登山で「自分に喝を入れました」と報告。皆様へ感謝の気持ちを伝え、今後のご支援をお願いしました。若さと誠実さにあふれたあいさつに、会場から大きな拍手が送られました。